

第二朗読 ローマの教会への手紙 9:1-5

(皆さん、) わたしはキリストに結ばれた者として真実を語り、偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によって証ししていることですが、わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります。わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。彼らはイスラエルの民です。神の子としての身分、栄光、契約、律法、礼拝、約束は彼らのものです。先祖たちも彼らのものであり、肉によればキリストも彼らから出られたのです。キリストは、万物の上におられる、永遠にほめたたえられる神、アーメン。

福音朗読 マタイによる福音 14:22-33

(人々がパンを食べて満腹した後、) イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるとき、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

共同祈願

① 亡くなった私たちの家族のための祈り

亡くなった私たちの家族、友人、恩人のために祈ります。命の源である神が、今は永遠の安息のうちにあるすべての人々の上に、主の愛といつくしみを豊かに注いでくださいますように。

(一同) 主よ、わたしたちの祈りを聴きいれてください。

② 熊本地震被災者のための祈り

熊本地震の被災者のために祈ります。すべての人にいつくしみを注いでくださる神が、苦しみと不安の中で日々を過ごす人々の心を照らし、希望へ向かって歩むことができるよう、いつも励ましてくださいますように。

(一同) 主よ、わたしたちの祈りを聴きいれてください。

③ すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、
あなたはお造りになったすべてのものをご自分の優しさで包んでくださいます。
わたしたちが傷つけてしまった地球と、この世界で見捨てられ、
忘れ去られた人びとの叫びに気づくことができるよう、
一人ひとりの心を照らしてください。
無関心を遠ざけ、貧しい人や弱い人を支え、
ともに暮らす家である地球を大切にできるようわたしたちの役割を示してください。
すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくために、
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、あなたの愛の道具として遣わしてください。
すべての被造物とともにあなたを賛美することができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。